

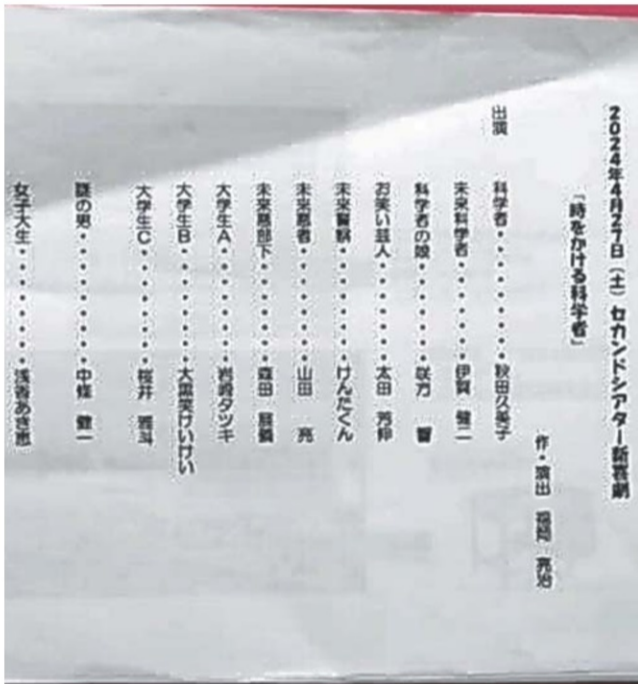
先月、吉本新喜劇の脚本家としてデビューしました。本番の舞台は大盛り上がり！ 大成功はもちろんです。台本Ⅱ写真Ⅱの「作・演出」に自分の名前があり、25年ぶりに吉本新喜劇の仲間たちと名前を並べ、一緒に舞台をつくり上げることができたのがうれしくてたまりません。初脚本でしたが、二つの新しいことに挑戦しました。

④7 新喜劇脚本家デビュー



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

科学実験と「脱・容姿いじり」に挑戦



ることになりましたが、笑いにつながる自然な流れで実験を入れることができました。劇場の公式サイトで「笑いもあり、シリアスもあり、勉強にもなる」とあり、手応え十分！ 次の機会をいただければならぬとたくさん科学実験を取り入れたいともくろんでいます。



二つ目は教育に関わる立場として、「容姿いじりを封印して別の展開で笑いをねらう」という挑戦。新喜劇では容姿いじりが定番であ

るベテラン女優さんに、「コンプレックスが厳しくなった時代の流れを考え、容姿いじり以外の笑いを追求したい」、「10年先の吉本新喜劇の在り方の提案として挑戦させてほしい」と熱く語り、理解を得た上で脚本を完成させました。

笑いをつくるために以下のことを考えました。①新喜劇は何かを大げさにすることで笑いが生まれる②容姿いじり以外のことでも大げさにすれば笑いは生まれるのではないかと③私はベテラン女優さんのことを「美しい人」と新喜劇に在籍していた時から思っていた④それを大げさに表現して笑いをつくろう

そして、①④から生み出した「美容にこだわる自信満々の美人

キャラ」を熱演していただき、大爆笑を得ることができました。教育学部の大学教授として「教育を変える」というのが私の夢でしたが、吉本新喜劇を通してお笑いを伝えることもできる可能性を感じました。これ以降、新喜劇で「容姿いじりをしない今回のキャラ」を使っていたら、機会があるとなれば、私の夢は達成に近づきます。

いろいろと語りましたが、私の脚本よりも旧知の役者さんが一生懸命盛り上げてくれたことが大成功の要因。25年ぶりにもかかわらず、私の挑戦に快く賛同し、熱演する先輩や仲間の姿を見て涙が止まりませんでした。一生忘れられない吉本新喜劇脚本家デビューの1日になりました。